

総務経済常任委員会会議記録（概要）

令和3年11月18日（木）

開 会（午前11時28分）

**【議 事】**

○特定事件「行政経営について」及び「農業・商業・工業について」

所沢ブランド、シティプロモーションについて

亀山委員長

本日は、10月29日の委員会において決定したとおり、自由討議を行います。

**【自由討議】**

中村委員

このテーマについてだが、やはりコロナの影響があって、各事業者、これは工業や商業、農業、共通していると思うけれども、自分たちの商品を販促するというか、PRする機会がなくなっているのかなと思っています。これは相次ぐイベントの中止だったりして、それが実際に売り上げにダイレクトに響いていらっしゃる方と、そうでない方というのはいらっしゃると思うけれど、この辺については、何らかの対応というのは必要だし、ある種、地元に住んでいる所沢市民の方々は身近にあるすばらしいも

のに触れるチャンスでもあるのかなと思っていて、その辺は、ここ直近、近々のところでうまく対応できると、市民が市内にあるいいものを理解するきっかけにもなるし、商品の販促だとか、PRにもなるので、予算的にもそんなに大きくかかるものではないので、そういう事業者たちも求めているものの一つなのかなと感じる。

福原委員

私もいろいろな方から聞いた話だが、アピールするにはどうしたらいいだろうかと。それぞれ皆さん頑張っている。生産者の方も事業者の方も様々な御意見を聞くと、皆さん頑張っているのだけれども、それが一本につながっていないというのがある。所沢全体として、所沢ブランド力というのか、名前はうまく浮かばないが、うまくそれを連携させる力というのが必要なのかなと。では、それをどこがやればいいのかとなったときに、行政なのか、民間でしっかり組合とかを作ってもらって立ち上げてもらったところを行政が応援するという手段もあったりすると思うが、その辺のところを、少し研究した方がいいのかなと私自身は思っている。

平井委員

あらゆるところでいろいろな話を聞く中で感じたのは、まず所沢のブランドという意味では、それぞれ事業者は頑張っているけれども、それを集約して、発売とか発表する場がないということで、コロナ禍の中では困ったという話も多くあった。今後、所沢として、そういった若い起業家が活躍できるような場所の提供とか、それに対する応援施策として、何らかの

補助金を出すとか、それをアピールする場がすごく必要だなと思った。いろいろな方がいろいろなことを言っていたのだが、コロナでイベントができなくなったということで、イベントは大事なんだなと思ったし、ところざわまつりがなくなったことによって、ビールを作っている方から1日で100万円売れるのにそれがなくなったというような話も聞いている。

コロナが終息すれば、自然とイベントはできるけれども、あらゆる時にそういったイベントの中に、こういった起業家の方を組み入れるような、そういう仕組みづくりが必要かなと思った。

農業関係者にもいろいろと話を伺った。私はずっと所沢のブランドは里芋と思ってきたけれど、そういうものでもないのだなということ、話を聞いて初めて思った。いろいろな人がいろいろなことを言っていたのだが、自分が作った野菜を食べてほしいとか、越谷市ではイチゴ栽培で大きく名前が出ているとか、ブランドだけでも、野菜のブランド化はすごく難しいんだということを知って、なるほどと思った。だからやっぱりここも、行政が応援する形で、そういうイベント的には、どこそこの作った野菜とかそういったアピールする場を作るのと、4Hクラブについて話を伺ったところ、非常に使い勝手が悪い補助金であることが分かったので、ここは行政として直ぐにでも対応できることなので、そういったことも含めて検討する必要があると思った。

島田委員

所沢ブランドというと、野菜にしろお菓子とか、そういう製品にしても、

目玉になるものが必要なのではないかなというふうに思いがちところが自分はあるが、いろいろと所沢の野菜を1つ取っても、様々な種類を作っていて、目立つリーダー的なものがなくとも、それぞれをどういう形でパッケージ化してアピールしていくことというのが大事だなと。

所沢の立地を考えると、やはり、北海道や瀬戸内といったブランド力はどうしてもないので、どういう形で、東京に近いというのもあるし、例えば、そういった方を呼び込んで、収穫体験をしてもらうだとか、切り口はいろいろあるのではないかなというふうに感じた。

私もそうだが、新住民からすると、所沢に何があるのかという、訴える力というのがないのかなというところで、市内にアンテナショップをというようにお声も聞いたりしたので、そういったもの、あと、新規で事業を展開されたい方をどういう形で行政のほうで応援できるか。例えば、寄居町のアグリ館みたいな、ああいう製品を造る上でテストする施設を新規でやりたい方には貸し出せるようなものであるとか、そういった形も、行政のほうでバックアップできるのではないかと思う。

先ほど、越谷市のイチゴの廃熟利用の話もあったが、そういった新しい、まだまだ、行政もバックアップできるやり方、何となく今までのアプローチの仕方は硬直しているような印象を持っているので、少し柔軟に考えて、この委員会でもまた提言につなげていければと思う。

中委員

私もいろいろな方にお話を聞いてきたけれども、きっかけづくり交流会

という言葉はずいぶんと耳にすることが多くあった。確かに行政がやることは、きっかけづくり、まず芽を育てることなのかなと。そこから先は、各々の事業者、農家、そういった方々が努力して発展するとまた面白いことになっていくのではないかなと。まずは火種をどう作れるかというところと、今、島田委員からもあったように、商品開発というところで、それに対してはなかなか若い起業家の人からすると、そこに対する資金を自分たちで調達するというのは難しいというところもあって、そこを、何か商品開発を市がバックアップしながら気軽にできるようなものがあると、他からも、所沢に行くとなぞく起業ができそうだな、これからここで商売がやっていけるかな、といったことが語られるような気がする。そういったところも力を入れていってもいいのかなと思う。

所沢産の定義というか、所沢産って何なのかと言われたときに、私もそうだけれど、何も答えようがないのではないかというところがあったので、定義付け、特徴って何だろうなというのも少し探求していくのも1つの手なのかなと。一品よりもセットもの、所沢全体で何かを売り出すような形をつくっていけると面白いのではないかと思った。

もう1つ加えて言うと、所沢は空間が、緑もたくさんあるけれど街もあるというところで、そこをうまく、観光と空間とをセットにした、先ほど言っていた、収穫体験もそうだけど、その場所じゃないと味わえないようなブランドみたいなものの構築というのも、一つ、面白いやり方かなと思う。

平井委員

もう1点、イベントで皆さんが横につながったというような話もあったんだけれども、私はやっぱり、若い起業家とか農業従事者の方が、お互いを知り合う、そういう場所は行政ができるかなと思ったので、そういった役割を果たすことも今後、求められているのではないかと感じた。

中村委員

実際に、もう所沢で事業をやられている方々というのも1つのポイントなんだけれども、多くの人々に所沢のものを知ってもらいたいという意味では、それを使いながらの集客というか観光というのもやはり大切だと思う。サクラタウンやYOT-TOKOとかに来てくれる人たちをいかに、例えば西のほうの観光資源に流していくかとか、その逆か、というのは、一事業者が自分たちの努力をするということではなくて、まさに市が一つ一つの資源を有機的につないで、来ていただいた観光客の方に喜んでほしい、お金を落としてもらいたいところをやっていくというのは、大切なのではないかというのがある。

島田委員

やはり、必要な施設みたいなのも当然出てくると思うが、やはり、所沢市はなかなかその辺の農地転用であるとか、その辺の規制が近隣市に比べて厳しいというような、そういったお声も聞こえてくる中で、せっかくだいものが、隣の市にできてしまうのでは意味がないことなので、そこも少し、農業従事者の方や、新規で何か新しくやりたい方をバックアップする

上で、もう少し規制の緩和と言うのか、他市並みに見直しができるもいい  
のではないかと、その辺をもう少し委員会でも詳しく研究してみてもいい  
のかなと思った。

**【自由討議終了】**

亀山委員長

以上をもって、本日の審査は終了いたします。

これもちまして散会いたします。大変お疲れさまでした。

散 会 (午前11時41分)